



和みいにて実習を行う鈴木樹留さん



商品を店頭に並べる鈴木和志さん

地域社会を担う人材を育成 「デュアルシステム」企業実習

猪苗代高校観光ビジネス科の3年生28人は6月4日から8日まで、町内外のホテルや店舗、工場などで「デュアルシステム」企業実習を行いました。「デュアルシステム」とは、教育と職業訓練を同時に進める取り組みで、地元企業での就業実習と学校での講義などの教育を組み合わせで実施します。「デュアルシステム」を通じて、学校生活だけでは学ぶことができない社会人としてのマナーやルールを身に付け、地域社会を担う人材を育成することを目的として、同校では平成17年度から実施しています。

和みいにて企画展の準備や図書館のカウンター業務を行った鈴木樹留さんは「思っていたよりも人と接することが多かったです。将来、仕事に就いた時にこの経験を生かしたいです」と話しました。また、コメリ猪苗代店では5人の生徒が接客などに挑戦。鈴木和志さんは「あいさつや礼儀などを学びました。就職や進学での面接などに生かしていきたいです」と感想を話しました。

伝統行事の磐梯山登山

猪苗代高校では、昭和52年から続く伝統行事の磐梯山登山を6月15日に行いました。磐梯山登山には猪苗代高校の全校生徒129人とふたば未来学園高校の生徒25人が参加しました。

生徒は八方台登山口から登山を開始。弘法清水を經由して猪苗代登山口に下山しました。

参加した生徒は、登山を通じて級友との交流を深め、チャレンジ精神を養いました。



磐梯山の山頂で記念撮影する生徒

冬本番に備え、スキー部に講師着任

冬のスキー本格シーズンに備え、猪苗代高校スキー部（クロスカントリー）に「部活動指導員」として武藤正さん（北塩原村）が着任しました。

武藤さんは、これまで中学校の教員として教壇に立ち、スキー部顧問としても数多くの有力選手を輩出してきました。昨年度末に教員を定年退職され、今年5月から週4日程度、猪苗代高校スキー部の外部講師として生徒たちを指導しています。



着任のあいさつをする武藤さん（右）



花の苗を受けた緑小の児童ら



人権擁護委員から花の苗を受ける千里小の佐藤大心さん（左から1人目）と笠原結菜さん（同3人目）

命の大切さ・思いやりの心育む 緑小と千里小で人権の花運動

子どもたちが協力して花を育てることで命の大切さや思いやりの心を育み、人権尊重への理解を深めることを目的とした「人権の花運動」花の苗贈呈式は6月13日に緑小学校で、6月14日に千里小学校で行われました。

「人権の花運動」は、昭和57年度から主に小学生を対象として全国で実施されています。

花の苗贈呈式では、人権擁護委員の長尾幸子さんが「思いやりの気持ちで花の苗を育て、きれいな花を咲かせてください」とあいさつ。人権擁護委員が両校の児童代表者にマリーゴールドやサルビアなどの苗計100本を手渡しました。

緑小学校では、児童を代表して4年生の橋本愛弥音さんが「頂いた花を大切に育てます。自分たちの人権は自分たちで守ります」とあいさつ。千里小学校では、6年生の滝田朱紗実さんが「私たちはいじめを絶対にしません。みんなで仲良く過ごし、心に人権の花を咲かせます」とあいさつを述べました。

猪苗代湖で清掃活動 緑小学校

緑小学校の全児童60人は6月12日、自然や地域を大切にすることを目的として、猪苗代湖の清掃活動を行いました。児童は班ごとに分かれ、上戸浜、天神浜、志田浜で活動。湖岸に打ち上げられたごみを熊手などを使って丁寧に拾い集めました。

6年生の加藤優さんは「上戸浜には木の枝などがたくさん流れ着いていました。みんなで協力して猪苗代湖をきれいにしたいです」と話しました。



上戸浜の清掃活動を行う児童

ランドセル工場を見学 ひまわりこども園

ひまわりこども園のひまわり組（5歳児）の園児約60人は6月22日、会津若松市河東町のランドセル工場・羅羅屋会津若松工場を見学しました。

園児は、工場内でランドセルの生産工程などを見学した後、機械で切り込みを入れたランドセルの生地を剥がす作業を体験しました。また、お気に入りの色や刺繍が施された展示用のランドセルを背負い、小学生になった気分を味わいました。



ランドセルを背負い記念撮影する園児